

横須賀市の放射能対策

横須賀市 市民安全部 危機管理課長
小 貫 和 昭

基本的な考え方

今回の事態は、誰も経験したことがないこと

その中で、皆さんの安心に結び付くことを
やっていきたい

空間放射線量の推移

市内には18基のモニタリングポストがあり、
大気中の放射線量を常時監視しています。
下記のデータは、市役所に設置されているポ
スト（小川局）の推移です。

平成23年				
3月11日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
0.038	0.038	0.210	0.139	0.048
平成24年				
4月30日	5月31日	6月30日	11月30日	2月29日
0.051	0.048	0.048	0.048	0.052

横須賀市の取組み その1 測る

○水道水は、毎日、検査を実施

○学校の校庭、幼稚園・保育園の園庭、
主な公園の「地表面」「地上50cm」
「地上1m」の放射線量を測定

横須賀市の取組み その2 除染する

○学校、幼稚園・保育園、公園は、

地表面で $0.59 \mu\text{Sv/h}$ 以上か、



地上1mで $0.23 \mu\text{Sv/h}$ 以上の

放射線量を測定した場合、その土壌を取り除く

（除染）対応としています。

$0.59 \mu\text{Sv/h}$ という除染基準の考え方

1日8時間屋外にいるという学校生活を1年間210
日行ったとして、追加被ばく線量の限度である
 1mSv に達する上限値として算出しています。

$$1\text{mSv}(1,000\mu\text{Sv}) \div 210\text{日} \div 8\text{h} = 0.5952\mu\text{Sv/h}$$

（本市独自の基準です）

0. 23 μ Sv/hの除染基準の考え方

1日8時間屋外、屋内に16時間にいるという生活パターンを1年間送った場合に、追加被ばく線量の限度である1mSvに達する上限値として算出しています。

$$1\text{mSv}(1,000\mu\text{Sv}) \div 365\text{日} \div (8\text{h}+16\text{h} \times 0.4) \times \\ = 0.1902\mu\text{Sv/h}$$

※建物による遮蔽効果

上記の0.19 μ Sv/hに、大地からの放射線量0.04 μ Sv/hを足しています。
(環境省の基準です)

横須賀市の取組み その3 学校給食

①給食食材の測定

月に1回、3品目をサンプリング測定

②提供食の測定

学校給食で実際に児童に提供した1食分を1週間ごとにまとめて測定

この問題の厄介なところ

誰も経験していないことなので、何（誰）を信用していいのかわからない

いろいろな数値が出てくるが、どれだけ違うかわかりにくい（たいていのことは、経験上わかっているのに・・・）

<例> 昨日の競技は、1秒差で負けた

この競技が100m競走なら大差
マラソンなら、僅差

「情報」で気をつけていただきたいこと

事実は1つでも、伝える側の思いで、印象は異なります。

<例> 1月の売上は20万円、2月は21万円



縦軸のメモリが、左の図は10万円、右は千円
印象は、左は横ばい、右は急増！

続き

『A市のB小学校では、インフルエンザにかかった1年生の人数は10人、Z市のY小学校の1年生は40人がかかった』

なんとなく、感染率が4倍！と思いがちですが、B小学校の1年生は1クラスだけ、Y小学校の1年生は5クラスだったとすると・・・